

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (DPUB)

ニュースレター第8号 (2018年2月)

国連インターン衝撃編

6階の社会開発部を訪問した時の光景は、今でもはっきりと覚えています。両サイドに秘書の机が並び、その奥に専門官の個室。理路整然としたオフィス。カッコイイ！ああ、これが国連か〜。秘書の方に名前を告げると、専門官の個室まで連れて行ってくれました。この時、車椅子の専門官、高嶺豊氏に出会ったのです。なんで車椅子の方が(?)と少し疑問に思いましたが、きっと国連だから当たり前、と勝手に解釈しました。すると高嶺さんが「明日から1週間出張なんだよ」とぼそり、「?」と私。明日から1週間、私の面倒を見てくれる人が誰もいないそうです。せっかく急いでタイまで来たのに、いきなりの休み。国連も意外といい加減だな〜と、この時から感じ始めました。さて休み明けに出勤すると、マレーシア人のサン・ユンワ氏(女性)を紹介されました。その後、このユンワ氏が私の熱血指導官になるのですが、この時はまだ平穏で、国連でインターンができることにワクワクしてました。私の配属は、社会開発部・障害グループ。この時、国連が障害(?)と、ちょっと不思議に思いました。障害って医療とかリハビリだと思っていたし、弱者救済アプローチって、あまり興味がなかったからです。ただこの考えがまったくの間違いで、その後、この障害に引きずり込まれていくとは、この時は想像すらしていませんでした。(つづく・・・)



(DPUBチーフアドバイザー 千葉寿夫)

モンゴルの基準を作る機関でDET

2018.02.09



DET後の記念写真

2月2日、規格度量衡庁で障害平等研修(DET)を行いました。参加したのは建設や道路はじめ様々な分野で基準を作成する行政官12名。設立から95年を迎える今年の活動計画に、ぜひ障

害のある人達への配慮を強化したい、という思いからでした。

今回ファシリテーターを担当したのはトンガさん(上肢障害)。今までグループワークのサポートを行ってきましたが、この日は初のメイン進行役を務めました。緊張感が伝わってきましたが、参加した行政官達が組織の問題点を話し合い、具体的な行動までまとめることができ、終わったころにはほっとした様子でした。「建築基準を作成しているが、しっかり守られているか、モニタリングが必要」や、「DETを通じて、先ずは人々の意識や態度から見直さなくてはと気づいた」など、参加者の感想も様々。半日の研修で多くの発見があったようです。

物理アクセシビリティの向上に向けて

2018.02.08



ムンフボルトさん

建設開発センターに行ってきました。設計者が作成した設計図は、一度、このセンターに提出されエキスパートの承認を受けなければなりません。承認を受けた設計図は建設が可能となり、着工へと移ります。この承認事項に障害者に対するアクセシビリティの項目があるのですが、大量なチェック項目の一つでし

がなく、見落とされる、もしくはあまり重視されていない傾向にあるようです。そこで今回、建設開発センター職員向けに研修を実施してはどうかと、上級専門官のムンフボルトさんとお話してきました。ぜひ実施して欲しいと快諾されたので、物理アクセシビリティや障害の社会モデルについて、今後、研修を実施したいと考えています。多くの職員が研修を通し、アクセシビリティ向上に対する理解を深め、実施してくれればと思います。



JICA DPUBのFACEBOOKページに「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページのいいねが1320件に達成し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

日本での学びを発信～本邦研修報告会～

2018.02.06

1月31日、「障害者リーダーシップ育成」研修の参加者が日本での学びを報告しました。集まったのはNGOや行政機関の60名。日本の交通機関や建物のアクセシビリティ、障害のある人の自立生活や就労の現状など、研修に参加した全員が各自の学びをモンゴルの人達に共有しました。

「日本の駅は、鳥のさえずりや水の音など、音声で階段やお手洗いの位置を知らせている」、「障害のある人が就職した後、定着のためのサポートがある」など、研修員はモンゴルの人達に伝えたいことを発表。参加者は写真を見ながら熱心に耳を傾けていました。報告後、「学びを今後どう活用していくのか?」、「自立生活のための介助費用は?」と、質問や意見が途絶えることがなく、時間をオーバーしての白熱したディスカッションになりました。研修の報告に留まらず、NGOと行政のネットワーク強化にもつながるイベントでした。



会場の様子



質問に答える研修生



DET、企業進出！！～ハーン銀行～

2018.02.05

1月31日、ハーン銀行の人事部20名を対象に障害平等研修（DET）を行いました。モンゴル最大の銀行での研修を担当したファシリテーターはエンフニャムさん（下肢障害）。DETフォーラムの会長として重責を果たしました。

早朝から研修に参加したのは、事業、研修、管理と3つの課の社員の皆さん。研修当初は、ほとんどの参加者が「障害は人にある」と考えていましたが、様々な演習によって、「障害は環境や人の態度が生み出したもの」へと変化しました。手話人材が不足している、入り口の幅が狭い、など身近な問題を見つけ、解決策について熱心に議論していました。研修担当マネージャーのアマルムフさんは、「一方的な講義ではなく、参加型で自分で考えるという手法が良かった」と満足の様子。今後もモンゴル企業のモデルとして、「すべての人に優しい」環境づくりを目指しています。



DET実施風景

すべての人に優しい空港であるために

2018.02.08

すべての人に優しい空港であるためにチンギス・ハーン国際空港に行ってきました。障害者も使いやすい空港にするにはどうすれば良いか、顧客関係マーケティング専門官のトゥンサグさんと打合せを行いました。空港には、関係者も含めると800人くらいの職員がおり、その多くの職員に障害に関する研修を受けて欲しいと考えていました。そこでこちらから、障害平等研修を通じた意識改革、障害種別ごとのサービス方法、また障害者権利条約やモンゴルの権利法についての講義などは提供可能とお答えしました。これから、5月から実施できるよう準備を進めていきます。モンゴルは新空港も建設中ですので、国の玄関口として、物理・情報・サービスの面で空港がアクセシブルになることを期待しています。



チンギスハーン国際空港

Office: Government Building – 2, United Nation's Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

Email: dpub.jica@gmail.com